

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
1. 基本仕様						
1	サーバOSは信頼性・拡張性の高いオープンソースOS(Linux)、またはWindowsServer2022以降であること。					
2	クライアントOSはWindows11 以降であること。					
3	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。					
4	図書館システムの各業務は最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。					
5	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン(applet)やクライアントで動作する仕組み(JWS)などではないこと。					
6	図書館システムは、ブラウザのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。					
7	図書館システムは、セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。					
8	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。					
9	オペレータID/パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、オペレータID毎に業務メニューの設定ができること。					
10	端末毎でできる機能の制限やセキュリティ設定ができること					
11	貸出/返却/予約や、利用者登録/検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。					
12	以下のアクセス情報が保存できること。(アクセス日/時刻、アクセス館/IPアドレス/オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)					
13	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。					
14	保存されたアクセス記録をCSV形式などの利用可能なデータとして出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。					
15	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証(入力チェック)ができること。					
16	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。					
17	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。					
18	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのか一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。					
19	日付項目はカレンダーからの入力ができること。					
20	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。					
21	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。					
22	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。					
23	業務画面は、ディスプレイ解像度に従って最適なレイアウトで構成されること。(画面最大化)					
24	複数ウィンドウ処理ができること(例:複数業務の起動を行い資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を継続可能)。 ※!ライトカードリーダーライタやIC機器等の外部機器接続端末では単画面運用。					
25	1画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること(例:貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。					
26	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー & ペーストが可能なこと。					
27	各種一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。					
28	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと(例:貸出⇒書誌登録)					
29	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。					
30	サーバコンピュータ本体内にディスク装置を2重化し、システムおよびデータのバックアップ機能があること。					
31	停電・瞬電時のバックアップ機能があること(無停電電源装置等)。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
32	図書館システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。					
33	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。					
34	一台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。					
35	図書館システムは、公共・学校を含む200台規模の図書館運用を保證するシステムであること。					
36	図書館システムは、オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。					
37	図書館業務メニューから、他関連Webサイト(県立図書館等)を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。					
38	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。					
39	窓口各業務画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。					
40	各画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。					
2. 貸出						
41	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧に対応できること。					
42	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。 また、バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面/返却画面切替」ができること。					
43	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索し利用者特定～貸出処理が可能なこと。					
44	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や有効期限等の登録内容の更新が可能なこと。					
45	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則(貸出日数・延期日数・延回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数)設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。					
46	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。					
47	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。(確認せず貸出させないこともできること)					
48	利用者に対する日本語コメント(忘れ物、落し物、その他の案内等)通知ができること。 コメントは、追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。					
49	通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。					
50	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。 コメントは、追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。					
51	プライバシー保護のため書名の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。					
52	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。					
53	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。					
54	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。					
55	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料・他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。					
56	各種チェックがなかった時、条件により、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。					
57	相互貸借資料を貸し出す際、利用者の返却予定日と相互貸借の返還期限日と比較し、返還期限日を超過する場合は貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。					
58	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること(10件以上/画面)。					
59	貸出中(状況)一覧画面で資料状態(「予約あり」や「延滞」等)の色分け表示ができること。また、表示文字色と背景色の変更を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
60	貸出中の資料を選択指定することで貸出期間の延期ができること。また、貸出延長の操作は複数件まとめて実施できること。					
61	延期回数が貸出規則の回数を超過したり予約資料の時は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し延期の可否を判断できること。延期時に当初の貸出日を変更せず保持すること。					
62	貸出延期処理時、貸出統計にカウントする/しないが設定で選択できること。					
63	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。 継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限する/しないが設定で選択できること。					
64	利用者コードの入力時、家族連携された利用者の場合は家族の貸出中資料を確認できること。また、延滞資料がある場合、資料を明示できること。					
65	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理(休館日を選べる)し、また貸出画面での随時変更もできること。					
66	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。					
67	本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。					
68	その日1日の館毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。					
69	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書・雑誌・AV等)が表示され、何を何点借りているか表示できること。					
70	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。					
71	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。					
72	貸出画面から予約の取消ができること。					
73	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。					
74	貸出画面から、紛失等による弁償処理が行え、紛失届の印刷ができること。					
75	返却処理漏れなどによりシステム上は貸出中(未返却資料)扱いだが、利用者からは返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象からも除外できること。					
76	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。また、家族が予約した資料を貸出しても、予約データの消去ができること。					
77	貸出状況一覧で、貸出処理館分の資料のみ表示と全館分の資料の表示ができること。					
78	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。					
79	予約資料一覧からレシート印刷ができること。 予約シートには予約メモ(備考)情報を印字できること。					
80	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。確保資料は確保館が確認できること。					
81	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。					
82	貸出完了せずに離席した時、一定時間経過後、貸出完了と利用者情報の画面消去が自動でできること。					
83	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。					
84	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。					
3. 返却						
85	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。					
86	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行ができること。					
87	書名の表示・非表示を予め設定できること。(プライバシー保護のため)。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。					
88	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。					
89	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
90	利用者に対する日本語コメント(忘れ物、落し物、その他の案内等)通知ができること。コメントは、追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。					
91	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。コメントは、追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。					
92	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・BM貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。					
93	無効(不明・紛失)となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。					
94	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除することもできること。					
95	新刊コーナーの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。					
96	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。					
97	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで、「貸出⇄返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。					
98	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。(印刷可否の設定ができること)。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。					
99	予約レシートに予約メモが印刷できること。					
100	希望者には返却証明レシートの印刷ができること。					
101	A館で予約してB館で借りた本をC館で返却しても管理・識別ができること。					
102	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること) ・履歴参照返却(通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること)					
103	返却画面で貸出延期ができること。					
104	貸出延期処理時、貸出数をカウントする/しないが設定で選択できること。					
105	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。					
106	基本的にプライバシー保護のため返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。返却履歴を保存する設定の場合は、ボタンで任意に履歴消去できること。また、業務メニュー終了時に自動消去もできること。					
107	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書、雑誌、AV等)が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。					
108	その日1日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)					
109	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。					
110	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。					
111	返却画面表示のまま離席した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。					
112	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。					
113	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。					
114	返却履歴は1日分の履歴を保持し、自端末のみ/自館端末全全ての表示切替が可能なこと。					
4. 督促						
115	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキや督促状の印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。					
116	利用者別に資料、督促ごとの履歴を残し、時系列に履歴が参照できること。また督促履歴の削除ができること。					
117	電話督促時には家族連携利用者の延滞資料も簡易に参照できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
118	督促中資料が返却されたときは、該当資料の督促履歴が削除されること。					
119	一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により未返却者一覧表示後、メールで督促の通知ができること。メール送信履歴を残すこと。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。					
120	未返却者一覧表示後、延滞資料の在架チェックを行うための帳票が出力できること。					
121	督促対象資料中の予約資料のみ抽出し、督促ハガキを印刷、および、メール通知ができること。					
122	返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。					
123	メール発信記録参照画面より、督促メールを発信した、利用者コード、利用者名、メール発信日、時刻、対象資料の資料コードが参照できること。					
5. 利用者検索						
124	利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。					
125	上記の登録データからのみではなく、カード紛失や貸出停止中等利用者のステータスからも利用者検索が行えること。					
126	利用者検索の後、特定した利用者情報の修正ができること。					
127	利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館、無効理由区分で絞り込みができること。					
128	利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。					
129	登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷および、各種OAソフト(Excel等)で読み込み可能な形式(CSV形式)で出力できること。					
130	登録利用者の一覧出力では、管理者権限による出力制御ができること。					
131	検索中断件数を設定できること。					
132	利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。					
133	利用者の詳細表示は、簡易・詳細による切替が可能なこと。					
134	利用者検索の後、その利用者の情報を維持したまま、貸出/予約処理等へ移行できること。					
135	貸出状況一覧が表示できること。また、個人/家族、全館/自館をワンタッチで切り替えできること。					
136	貸出資料の不明/紛失/弁償処理/仮返却ができること。					
137	貸出資料の詳細情報が表示できること。(資料検索結果画面相当の情報)					
138	予約している資料一覧が表示できること。また、個人/家族の切り替えをワンタッチでできること。更に、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。					
139	コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること(コメント数は無制限)。また、修正、削除もできること。					
140	プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままで離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。					
6. 利用者登録						
141	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。					
142	利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチで漢字入力した通りに自動ヨミ振りができること。					
143	利用者データの補足情報として、図書館からの連絡を受ける際の希望情報(連絡手段、連絡時間帯、連絡曜日など)も登録できること。また、予約や督促を実施する際に利用できること。					
144	登録する電話番号について、図書館からの連絡(予約確保や督促等)を受ける際の優先順位を設定できること。					
145	家族の一人目を登録すると、以降は電話番号入力後ワンタッチで利用者データを複写し、氏名、生年月日、性別等を直すだけの連続登録ができること。この時入力する電話番号はハイフン、括弧の有り、無しに関わらず複写できること。					
146	利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。					
147	利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。					
148	利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
149	利用者のE-mailアドレスやパスワード情報の登録ができること。パスワードは非表示で暗号化対応であること。					
150	利用者のE-mailアドレスやパスワードの変更履歴が参照できること。ただし、参照時は特定パスワード等の認証が必要であること。					
151	年齢は生年月日からシステムが判断し自動計算であること。年次処理等の処理は不要であること。					
152	家族共通の情報(電話番号、住所)は、家族の一人を修正することで、他の家族も一括更新できること。					
153	新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。					
154	コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。					
155	郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。					
156	貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、1利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。					
157	利用者パスワードの保守権限をログインID毎に設定できること。					
158	登録した電子メールアドレスについて、内容確認のために、利用者登録画面から確認メールを送信できること。					
159	初期パスワードの自動発行機能、パスワード発行のメール通知/レシートへの印刷ができること。					
160	パスワード通知方法の初期値を、新規登録時と修正時で別に設定できること。					
7. 利用者管理						
161	有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。					
162	生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。					
163	任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除できること。あくまで、任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。					
164	利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容(督促・予約連絡等)とその発信日時が確認できること。					
165	利用者情報特定後、利用者への督促処理ができること。					
8. 資料検索						
166	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目、別置等書誌や所蔵に設定されている項目から検索対象とする情報を任意設定して資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。					
167	各種の変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)					
168	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。					
169	"10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。					
170	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。					
171	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。					
172	うる覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。					
173	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。					
174	"検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。					
175	また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)"					
176	検索結果は、利用可能/貸出中/貸出不可/発注あり/除籍/相互貸借資料/未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。					
177	前項の表示色は任意に変更が可能なこと。					
178	指示により、検索結果の印刷ができること。					
179	印刷のほか、CSVやエクセル等の標準的なフォーマットで保存も可能なこと。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
180	検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。					
181	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。					
182	対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。					
183	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。					
184	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して表示できること。					
185	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。(一般書と児童書を分けて検索する事が可能。)					
186	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。					
187	上記の規則を任意設定できること。					
188	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。					
189	資料一覧画面では通常登録順(最新が上)だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列(ソート)できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。					
190	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。(ハッターソートが可能なこと)					
191	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。					
192	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。					
193	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。					
194	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・AV等の種別毎に設定できること。					
195	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。					
196	検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。					
197	種別(図書・雑誌・AV等)の複数指定による横断検索ができること。					
198	典拠番号により、同名異人特定検索、ペンネーム等の別名の自動検索ができること。また、その関連を一覧画面で確認できること。					
199	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。					
200	本に印刷されているISBNバーコードの読取り検索ができること。					
201	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力で全タイトル検索ができること。					
202	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失/不明/弁償処理ができること。					
203	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。					
204	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応)プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。					
205	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。					
206	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。					
207	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。					
208	検索結果より、書庫出納票(レシート)が印刷できること。					
209	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。					
210	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと。					
211	TRC-TOOLiサイトとの横断検索が可能なこと。					
212	TRC-TOOLiサイトから取得した情報から、書誌登録・選定・発注・相互貸借の連携が可能なこと。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
9. 予約						
213	館毎かつ利用者資格毎に予約規則(予約有効日数・合計予約件数)設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。					
214	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。					
215	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。書誌予約:複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。所蔵予約:複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。					
216	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。					
217	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。					
218	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。					
219	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。					
220	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。					
221	予約メモ入力ができること。					
222	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。					
223	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。					
224	大型絵本や紙芝居等、特定の資料について貸出は行えるが予約を制限するといった設定が行えること。					
225	予約入力の件数統計(予約区分:窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。					
226	任意に予約解除ができること。					
227	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。					
228	予約資料情報の一覧表が出力できること。					
229	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連係ができること。					
230	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。					
231	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。					
232	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み/未連絡/不在の管理もできること。					
233	予約確保日(予約棚日)で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。					
234	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。					
235	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。					
236	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)					
237	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。					
238	予約対象館を本館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館:Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)					
239	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。					
240	予約利用者の受取希望館の選択ができること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
241	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合に予約機能にて配送依頼ができること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択でき、依頼と同時に依頼先へ配送依頼票を印刷できること。					
242	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域(グループ)毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。					
243	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合、予約と同時に依頼先館のページプリンタに予約配送票を自動印刷できること。確保できる資料が複数館にある場合は、画面上で依頼先館を選択できること。					
244	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。					
245	図書・雑誌・視聴覚資料または資料種別(紙芝居、CD、DVD等)により、予約可能件数が設定できること。					
246	雑誌最新号や禁帯出資料等、特定の資料区分に対し予約の可否を設定できること。					
247	予約した資料の予約票が印刷できること。					
10. 配送管理						
248	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。					
249	配送館状況(A館→B館)、配送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。					
250	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。					
251	他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。					
252	一覧画面で配送状況(配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。					
253	一覧画面で配送依頼状況(配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。					
254	配送元館/配送先館毎の年間配送状況(返却時の本籍館配送、予約配送、予約取消毎の月毎配送件数)が印刷できること。					
255	他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。					
11. 館内OPAC(全般)						
256	最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。					
257	ブラウザのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。					
258	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。					
259	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。					
260	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。					
261	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。					
262	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。					
263	検索中断件数の設定ができること。					
264	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。					
265	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。					
266	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。					
267	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。					
268	詳細画面から予約申込ができること。					
269	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。					
270	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。					
271	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。					
272	大型絵本や紙芝居等、特定の資料について、検索は行えるが予約を制限するといった設定が行えること。					
273	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
274	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。					
275	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。					
276	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。					
277	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。					
278	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。					
279	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。					
280	予約完了時、利用者控えの出力ができること。					
281	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。					
282	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。					
283	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。					
284	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。					
285	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。					
286	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。					
287	典拠参照から詳細検索が可能であること。					
288	特定の所蔵館や場所の資料をOPAC検索対象外として設定できること。また、設定により簡単に検索対象に切り替えられること。					
289	検索項目を特定せず、検索語のみの入力での検索できること。					
290	検索項目を指定するキーワード検索もできること。					
291	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。					
292	こども向け画面では、こども向けの資料(区分で制御すること)に限定した検索ができること。また、設定については稼働後も任意に変更可能であること。					
293	キーワード検索にて、全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。					
294	全文検索ができること。					
295	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。					
296	著者名=イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。					
297	雑誌ジャンル(例:スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。					
298	バストリーダ一覧が表示できること。バストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。					
299	バスト予約一覧が表示できること。					
300	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位または、資料区分単位で表示できること。					
301	検索結果一覧を並び替えできること。					
302	検索結果一覧に条件を追加し、絞り込みできること。					
303	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。					
304	検索結果一覧の印刷ができること。					
305	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。					
306	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。					
307	巻号一覧に条件を追加し、絞り込みできること。					
308	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。					
309	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。					
310	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
311	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。					
312	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。					
313	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。					
314	利用者カード番号とパスワードでログインできること。					
315	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。					
316	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。					
317	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。					
318	延滞利用者に対して、貸出の延期及び新規予約を行えないように制限できること。					
319	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。					
320	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。					
321	貸出状況、予約状況の印刷ができること。					
322	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。					
323	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。					
324	変更処理の完了通知メールの送信ができること。					
325	配架図の編集と配架場所の編集を容易に設定できること。					
12. 図書管理						
326	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)					
327	複本のデータ管理ができること。					
328	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。					
329	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。					
330	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。					
331	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。					
332	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。					
333	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。					
334	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持つこと。					
335	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。					
336	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。					
337	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。					
338	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。					
339	TRC-Tマーク:新刊マーク、抽出マーク、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。					
340	TRCマーク:内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。					
341	TRCマーク:内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。					
342	TRC-Tマーク:典拠ファイルを一括登録することができ、検索に活用できること。					
343	TRCマーク:目次ファイルを一括登録できること。					
344	TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。TOOLi検索の結果から、マーク情報を確認し、図書登録画面にマーク情報を直接ダウンロードできること。この時、内容細目もあれば同時にダウンロードできること。					
345	TRCのTOOLi Ver3.0に対応していること。					
346	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
347	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。					
348	国立国会図書館が保有する書誌情報を横断検索し、書誌データをパッケージ画面上で登録できること。					
13. 雑誌管理						
349	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。					
350	雑誌書誌登録では、誌名・出版者・出版年・創刊年・刊行頻度・分類・副誌名・異誌名区分・開始巻号・最新巻号・終了巻号・注記・巻号注記等の基本情報が登録・修正・削除できること。					
351	巻号情報では、巻号名・特集記事・発行日・巻号・通番・件名・価格情報等の登録・修正・削除ができること。					
352	書誌登録画面で資料のイメージ情報も登録できること。					
353	所蔵登録画面では、所蔵館・配架区分・請求記号・帯出区分・受入先・資料区分等の登録・修正・削除ができること。					
354	誌名変遷の管理ができ、業務用検索及びOPACに反映されること。					
355	受入済み巻号データの修正ができること。その際、資料番号を読み込むことでデータ修正画面へ展開できること。					
356	未着欠号の管理ができること。					
357	発行年月日が重なる別冊や付録などの巻号情報も登録できること。					
358	巻号ごとに目次情報、特集名、巻号注記等の情報が登録できること。また、この情報が業務用検索及びOPACの検索対象になること。					
359	実際に受入を行わない巻号でも、巻号情報の登録はできること。					
360	CD-ROM等の付録、添付資料を管理できること。					
361	所蔵雑誌の廃棄時、雑誌の資料情報と巻号情報のデータを簡易な操作で一括して消去できること。					
362	タイトル毎に保存年限を設定でき、それにより一括除籍処理ができること。					
363	情報の種類毎にまとまった形で表示できること。					
364	「合併号」や「増刊号」など任意の文字列で登録できること。					
365	特別号は定型登録していれば定型からの引用が可能であること。					
366	目次・特集・記事情報の一覧での表示順を任意で変更可能であること。					
367	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。					
368	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。					
369	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。					
370	各種情報を可変長にて入力でき、図書資料とほぼ同様の登録処理ができること。また検索できること。					
371	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。					
372	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。					
373	巻号を「巻/号/通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。					
374	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。					
375	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。					
376	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。					
377	豊富なローカルデータを持てること。					
378	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。					
379	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
380	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。					
381	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。					
382	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。					
383	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。					
384	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。					
385	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。					
14. 蔵書管理						
386	館コードにより分館の管理ができること。					
387	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。					
388	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。					
389	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。					
390	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。					
391	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存/復元ができること。					
392	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。					
393	区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。例:公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。					
394	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。					
395	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。					
396	複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。					
397	資料に付録の有無を登録することができること。					
398	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。					
399	資料の除籍作業時に最終貸出日、累積貸出回数を表示し、対象資料を除籍するかやめるか判断できる仕組みがあること。					
15. 蔵書点検						
400	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。					
401	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。					
402	ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。リストでは、チェック対象資料の1つ前に読み込んだ資料の番号を出力できること。					
403	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。					
404	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。					
405	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。					
406	各館(及び場所)毎に蔵書点検ができること。 また、蔵書点検中以外の館は通常開館できること。					
16. 発注						
407	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。					
408	発注処理を経なくても、受入データの作成ができること。データは、TRC(新刊全件マーク、内容細目、典拠、目次)からの取り込みの機能を有すること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
409	新刊マークを利用して、選書・発注処理ができること。					
410	新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。					
411	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。					
412	発注の取消しができること。					
413	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。					
414	発注中の本に対して予約できること。					
415	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。					
416	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。					
417	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。					
418	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。					
419	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。					
420	発注処理の前に選定データ(選書)の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力は資料検索・TOOLi検索と連携できること。これにより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。					
421	TRCマーク:TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。					
422	TRCマーク:新刊マーク(新刊全件マーク・発注管理マーク)を一括登録し、発注時、選書データとして活用できること。新刊マーク一括登録時「新刊急行ベル」や「新継続」の本は自動で発注データを作成できること。その時、TRC発注データは作成しないこと。					
423	TRCマーク:「週刊新刊全点案内」のバーコード(TRCNo)を走査し発注できること。					
424	TRCマーク:TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。図書館システム画面上でTOOLiと直接通信し、TOOLi検索/ダウンロード/在庫照会/TOOLi発注/発注状況照会/月別注文状況/MARCデリバリー処理を行うことができること。					
425	TRCマーク:TOOLi発注用のデータ作成・送信ができること。また、見づらい・クイック発注にも対応できること。					
426	寄贈情報から資料受入が行えること。					
427	寄贈者に対し礼状を出力する機能を有すること。礼状ははがき、封書、FAX、メールで送付できること。各形態ごとに文面を設定できること。また、礼状送付一覧をExcel等でファイル出力できること。					
428	寄贈件数を統計情報として出力できること。					
17. 受入						
429	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。					
430	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。					
431	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。					
432	雑誌等の年間一括発注(継続発注)本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入/受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。					
433	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。					
434	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。					
18. 予算						
435	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。					
19. WebOPAC						

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
436	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。					
437	最新の複数のブラウザ(Microsoft Edge、Chromeなど)に対応すること。					
438	レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス(PC、タブレット、スマホ)において同等の機能と操作性を有すること。					
439	総務省が提唱するアクセシビリティの基準においてA以上とすること。					
440	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。					
441	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索可能であること。					
442	検索中断件数の設定ができること。					
443	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。					
444	操作ガイドは大人用(漢字混じり)、子供用(ひらがな)、英文の3種類に対応できること。					
445	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。					
446	各機能の利用回数統計が出力できること。					
447	検索項目を特定せず、検索語のみの入力でも検索できること。					
448	検索語のみの入力の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。					
449	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。					
450	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。					
451	キーワード検索にて、全館対象・自館限定等の館指定ができること。					
452	全文検索ができること。					
453	NDC分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。					
454	著者名=イクナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。					
455	雑誌ジャンル(例:スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。					
456	ベストリーダー一覧が表示できること。ベストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。					
457	ベスト予約一覧が表示できること。					
458	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。					
459	検索結果一覧を並び替えること。					
460	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。					
461	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。					
462	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。					
463	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。					
464	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。					
465	Google ブックスとの連携が、サイト毎の設定画面から簡単に設定できること。					
466	Google ブックスと連携し、書影の表示が行えること。					
467	外部サイト(カーリル、Google ブックス)へのリンクを表示し、指定したリンク先の画面が表示できること。					
468	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。					
469	詳細画面から予約申込ができること。					
470	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。					
471	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
472	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。					
473	大型絵本や紙芝居等、特定の資料について、検索は行えるが予約を制限するといった設定が行えること。					
474	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。					
475	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。					
476	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。					
477	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。					
478	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。					
479	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。					
480	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。					
481	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。					
482	利用者カード番号とパスワードでログインできること。					
483	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。					
484	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。					
485	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。					
486	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。					
487	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。					
488	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。					
489	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。					
490	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。					
491	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。					
492	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。					
493	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。					
494	典拠参照からの詳細検索が可能であること。					
495	簡易検索／詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択(サジェスト)できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。					
496	検索結果一覧／詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。					
497	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞り込み検索(ファセットナビゲーション)ができること。					
498	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。(予約かご機能)					
499	また、保存した資料についてメモ／カテゴリを登録できること。					
500	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。					
501	相互貸借館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。					
502	特定の所蔵館や場所の資料をOPAC検索対象外として設定できること。また、設定により簡単に検索対象に切り替えられること。					
20. SDIサービス						
503	電子メールによるSDIサービスが提供できること。※SDIサービス:特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス 例:「園芸」「光ダイオード」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が登録(受入)されたらば、その資料情報(タイトル、著者、出版者等)をメールで提供すること。					
504	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容(キーワード)を登録できること。					
505	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
21. 相互貸借						
506	借受本の簡易登録ができること。					
507	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。					
508	借受依頼の際、相互貸申込書の印刷ができること。					
509	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌(タイトル)情報に簡易所蔵(ローカル)情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)					
510	相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。					
511	相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。					
512	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。					
513	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出/返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。					
514	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。					
515	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。					
516	年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。					
22. 帳票印刷						
517	統計資料はCSV、Excel等の標準的なフォーマットで画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。					
518	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSV形式などの利用可能なデータとして項目見出しつきで出力されること。					
519	日本図書館協会調査票、千葉県公共図書館協会調査票に対する項目が出力できること。					
520	統計表(日報、月報、年報)についてひとつの出力指示から複数帳票を出力できること。					
521	定型化された統計機能のほか、新たな集計項目が発生した場合に対応できるよう集計条件付加拡張機能を持つことにより、データベースから任意の条件によって職員が必要とするデータを抽出する機能と、メニューからの選択等の簡単な手続によってCSV、Excel等の標準的なフォーマットで統計ファイルを出力する機能を有すること。					
522	各種統計のデータは複数年度にわたって保存できること。					
23. 出力帳票一覧						
523	以下の帳票を出力できること。また、別紙4～13に示す統計情報に必要な項目を抽出し、再集計することなく表示できること。					
524	利用者一覧					
525	無効利用者一覧					
526	新着資料一覧					
527	無効資料一覧					
528	図書原簿					
529	図書一覧					
530	貸出資料一覧					
531	予約資料一覧					
532	予約在架資料一覧					
533	日別利用統計					
534	月別利用統計					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
535	年齢-分類貸出統計					
536	年齢-地区別貸出統計					
537	地区別資料区分別貸出統計					
538	利用者資格別資料区分別利用統計					
539	資料区分-ステーション別貸出統計					
540	年齢-ステーション別貸出統計					
541	年齢-ステーション別貸出人数統計					
542	ベストリーダー					
543	ベストリクエスト					
544	分類別蔵書統計					
545	地区-年齢別登録者統計					
546	蔵書集計表					
547	登録者集計表					
548	貸借館別相互貸借統計					
549	分類別相互貸借統計					
550	相互貸借借受資料一覧表					
551	蔵書点検エラーリスト					
552	不明候補資料一覧表					
553	不明資料一覧表					
554	除籍候補一覧表					
555	資料バーコード一覧					
556	貸出レシート					
557	督促ハガキ/未返却者一覧					
558	団体別利用者統計表					
559	統計分類別貸出実績表					
560	統計分類別利用者資格別利用統計表					
561	所蔵一覧					
562	OPAC利用件数統計表(館内、Web、携帯毎)					
563	相互貸借資料未返却一覧表					
24. 図書館専用ホームページ						
564	信頼性、拡張性の高いオープンソースOSで作成すること。					
565	旭市図書館蔵書検索及び情報提供機能を有するWEBサイトを構築すること。形式がSaaS方式あるいはASP方式による場合は、達成水準の記述と異なる点を明示した上で、同等内容の機能及び運用方法が提案できるものとする。					
566	WWWブラウザによりインターネットからの利用を可能とし、インターフェースはパソコン、スマートフォン・タブレット端末に対応していること。クロスブラウザであること。					
567	現行の旭市図書館ウェブサイト(https://www.library-asahi-chiba.jp/)のドメインを引き継ぐこと。また、既存のコンテンツを継続、維持できること。					
568	レイアウト等については、旭市と十分打合せの上作成すること。(トップページを含め最大30ページ程度を想定)					
569	動的なサイトが「JIS X8341-3:2016」の達成基準AAに準拠し、アクセシビリティ・ユーザビリティに配慮していること。					

No.	要求事項	実現可否	標準仕様	カスタマイズ	代替案	備考(代替案の場合は具体的に記載してください)
		可→○	該当箇所に○のみ記入してください。			
570	インターネットを利用する通常の利用者(一般的なクローラを含む)が、資料の検索においてストレスを感じることがないようにすること。					
571	スマートフォン・タブレット端末向けサイトは、利用者の視点から見て使いやすいものであること。					
572	今回導入する全ての業務端末から利用できること。					
573	今回導入するパソコンに標準的に備えられているブラウザにて利用できるものであること。					
574	スマートフォン・タブレット端末に対応でき、パソコン用ホームページの作成・更新により、スマートフォン・タブレット端末対応ホームページも自動作成・更新されること。また、スマートフォン・タブレット端末に掲載する画像データを自動的に最適化できること。					
575	図書館専用ホームページからの画面遷移で、資料検索・予約ができること。					
576	ホームページを操作できる端末は、旭市図書館の指定した端末のみとすること。					
577	カレンダー、お知らせについては、特定のパスワード以外については操作できないこと。					
578	旭市図書館がホームページを主体的に運営・管理するために必要なマニュアル及び操作研修を行うこと。					
579	ホームページのお知らせやコンテンツの追加修正等、メンテナンス作業は図書館に来館することなく保守仕様書の通り対応すること。また、緊急時は職員がメンテナンスを行う方法があること。					
580	一般職員によるコンテンツの作成・更新が容易であること。簡易な操作でメンテナンスを可能とすること。					
581	コンテンツの作成・更新にはHTML言語を意識することなく、一般的なワープロソフトに近い操作性により編集が可能なソフトウェアを用意すること。					
582	コンテンツ作成ツール、画像編集ツール等の操作、及びHTMLの基礎的な操作の説明等を職員に対して行うこと。					
583	コンテンツマネージメントシステム(CMS)を導入し、コンテンツのメンテナンスが職員により簡易に行えること。					
584	事前に設定した日時に自動的にコンテンツの公開及び公開停止ができるスケジュール機能を持つこと。					
585	コンテンツ作成においてデジタルカメラ等の画像データを公開する場合、自動的に画像データを最適化して公開できること。					
586	スマートフォン・タブレット端末に対応でき、パソコン用ホームページの作成・更新により、スマートフォン・タブレット端末対応ホームページも自動作成・更新されること。また、スマートフォン・タブレット端末に掲載する画像データを自動的に最適化できること。					
587	セキュリティについて配慮されており、SSL証明書(ドメイン認証型)またはTLSによる暗号化通信ができること。					
588	ホームページの著作権は旭市図書館にあるものとすること。					
589	旭市で独自に作成している「新聞記事索引検索」を行う機能があること。また、雑誌新聞記事索引データを職員が簡単に作成編集及びホームページへのデータ更新が行えること。					
590	「新聞記事索引検索」では、記事のキーワード検索(中間一致)、掲載年月日(範囲指定検索)が行えること。					
591	「新聞記事索引検索」の「全記事一括表示」がおこなえること。令和7年2月時点で全記事数約9,600件。					